

和光学園について

和光学園は、1933年(昭和8年)に成城学園から分かれ、和光学園小学校として世田谷経堂の地に設立されました。いわゆる「成城事件」の中で、成城学園創学当時の「新教育」の伝統を守ろうとする父母・教師が中心になって創立したものです。

和光学園にとっては、太平洋戦争の時期はまさにいばらのみちでした。しかし、戦後は、海後勝雄を校長に迎え、石山脩平・梅根悟らの理論家を顧問としてコア・カリキュラム連盟(現在の日本生活教育連盟)の実験学校になり、戦後の「新教育」を発展させる学校として全国から注目されることになりました。


その後、春田正治校長、丸木政臣校長によって着実な教育づくりが進められるとともに、1966年には、梅根悟を東京教育大学から迎えて、念願の和光大学を発足させ、名実ともに幼稚園から大学にいたる一貫教育が実現することになりました。

**和光中学・高等学校への
交通機関および略図**

○小田急線……鶴川駅下車
バス：鶴川団地行き(2番乗場)
折返し場下車

○京王相模原線……若葉台駅下車
バス：鶴川駅行き
和光学園下車

◎バスの本数が少ないので余裕を持っておいで下さい。発車時刻をお知りになりたい方は下記問い合わせ先までお願いいたします。



- 申込み 締切り 11月22日(金) ※締め切り後は当日受付にてお申し込み下さい。
- 問い合わせ 電話 042-734-3401
- FAX申込み 042-734-3410
- 和光学園ホームページ <http://www.wako.ed.jp/> から和光中学または高校のページに入り、8月1日から申し込みフォームを使って申し込みめます。
- 参加費 1000円 学生無料
- 昼食 昼食が必要な方は事前にお申し込みください(代金1000円は当日受付けで)。学校近辺にはコンビニエンスストアもあります。

※「公開授業」見学だけを希望される方は、無料でご参加いただけます。

第48回 和光教育研究集会 申込書 (キリトリ線)

氏名	一般、和光保護者、学生、教員、()	「公開授業のみ参加」 (○印)	
住所 〒		希望分科会 (○印)	
電話		1 2 3 4	
		昼食 (○印)	1. 申込む 2. 不要

第48回和光中学校・高等学校 教育研究集会案内

——子どもの健やかな発達を願う父母と教師の研究会——

主題 参加と共同による学校づくり・授業づくり

2019年11月23日 [土]

8:40	9:00	9:45	10:30	11:30	12:30		15:30	16:30
受付	はじめの会	公開授業	授業検討会	昼休み	分科会	全体会		

※はじめの会で中学2年生による学年合唱があります

和光中学・高等学校

〒195-0051 東京都町田市真光寺町1291
☎(042)734-3401~3

- 和光幼稚園 世田谷区桜2-18-18 ☎03-3420-4352
- 和光鶴川幼稚園 町田市真光寺町1271-1 ☎042-735-2291
- 和光小学校 世田谷区桜2-18-18 ☎03-3420-4353
- 和光鶴川小学校 町田市真光寺町1282-1 ☎042-736-0036
- 和光大学 町田市金井町2160 ☎044-988-1431~5
- 法人事務局 町田市金井町2160 ☎044-986-6500

出会いを学びに変えて

和光中学・高等学校 研究委員会

和光中学・高校は、お互いの個性を尊重し合いながら、自分たちのことは自分たちで決めるという自由と自治の精神を大切にしている学校です。生活指導においては、いろいろな考え方・生き方があることを認め合った上で、自分たちの生活をどう作るかということを集団的に考える指導を実践しています。授業においても、生徒一人ひとりが表現し、意見を述べる学習を大切にしています。教師が一方的に生徒に問うだけ・話すだけの授業ではなく、生徒たち自身が自分の「問い」を持ち、多様な意見に出会いながら、主体的に学び合える学習を目指しています。

和光教研では、私達の実践を公開し、自由と自治の精神を大切にしている学校として何が求められているのか、参加者のみなさんから率直な意見をいただき、共に学び合いたいと思います。ご多忙の中の休日1日、みなさんとの出会いから深い学びが生まれるように努力しております。ぜひお誘い合わせの上、ご参加下さい。

来るべき社会を見据えて

和光中学・高等学校 校長 橋本 暁

つい最近まで、「グローバル化」「ICT化」という言葉が未来社会について考えるキーワードでしたが、この半年のうちに「Society5.0」に取って代わられてしまったような感があります。

言葉の問題はともかく、コンビニに行けば外国人店員を見かけることはしばしばあるし、教育現場では英語熱が煽られています。スマホを所持していない高校生は圧倒的に少数派で、中高生ともSNS・オンラインゲームへのはまりこみが問題になっていることを実感します。外国籍の人と街中で接触することが日常であり、自分の欲求ですらビッグデータとAIにコントロールされていると言ってよい中で、私たちが自他の人権を守り主体的に生きるにはどうしたら良いのか、ディストピア社会に陥らず真に民主的な社会をつくっていくためには何をすべきなのか、が問われています。学校という現場で、自分たちが担わなくてはならない教育課題は何で、その中身をどうしていったらよいか、その一端をみなさまと和光教研の場で共有しお互いに考えあうことができれば、大変ありがたいと思っています。お誘いあわせのうへご参加頂ければ幸いです。

授 業 公 開

高校2年生選択授業

国語	日本文学研究 小田桐 雅之
A選択	ドラマ 歌詞の向こうに物語が見える ～昭和歌謡曲編～

美術	版画 I 山口 亮
A選択	木版 リトグラフ

中学1、2年生必修4クラス

技術	中山 義人
1-1	情報に関する技術～目的のプログラムを組む～

数学	安田 広夢
1-2	平面幾何の基礎

理科	松元 亜希子
1-3	物質の性質

英語	岡添 倫子
2-4	長文読解

※授業内テーマは当日までの授業進度により、変更の可能性があります。

分科会とその内容 (12:30～15:30)

	分科会テーマ	
第1分科会	<h3>道徳性を育む総合学習</h3> <p>昨年度、中学3年生の総合学習のテーマは「シアワセ・フシアワセ」でした。目に見えない抽象的な大きなテーマについて、生徒達がどのように問を立て、調査・探究し、自分自身の価値観を広げていったのか。またその時教師がどのように授業をプランニングし、課題設定したのか。そんなおおよそ1年間の歩みをご紹介します。</p> <p>新学習指導要領で新たに教科として位置づけられる「道徳」には「各教科や総合学習の中でも指導を行うべき」とある一方で、明確な「徳目」が提示され、それにそって道徳的価値観を育むことが求められます。そんな「徳目」と今回の総合学習での学びを見比べていく中で、和光中学校が考える道徳性には何かについて、意見交流したいと思っています。</p>	<p>報告者 金子 真弓</p> <p>助言者 大津 悦夫 (立正大学名誉教授 元心理学部教授)</p>
第2分科会	<h3>中学生と創る英語の授業</h3> <p>「先生、なぜ私たちは英語(外国語)を勉強するのですか?」と生徒に聞かれた時、皆さんはどのようにこたえますか?こたえ方は様々ありますが、教員は日々、外国語教育のおもしろさをおもしろさを感じながら授業をしているのではないのでしょうか。外国語を学ぶ楽しさは、新しい音に触れることや、母語の枠を超えて自分の感覚や見方の枠を広げることにあると思います。世界の見方や自分自身の捉え方は一つではないということや、経験の中で各自が得た「答え」が絶対的に正しいものではないということや外国語教育を通して知る。そして新しい言語を学ぶことは自己を解放する喜びに繋がると考えています。分科会では報告者の実践するグループ探究学習の方法や、言語の消滅をテーマにつくったテキストについて皆さんと議論し、外国語教育の奥深さについて意見交換をしたいと考えています。</p>	<p>報告者 岡添 倫子</p> <p>助言者 絹村 俊明 (高生研副代表 中央大学特任教授)</p>
第3分科会	<h3>生徒同士が本音で話すクラスづくり</h3> <p>和光高校では担任は毎年変わりますが、生徒はクラス替えがありません。4月の頃、クラスは個々に対して無関心で、複数の同質グループがあり、全員が面と向かって言いたいことを言えない関係性ができていることがこのクラスの課題だと思いました。</p> <p>ある日、リーダーの生徒たちとクラス目標の打ち合わせをしていると、生徒の一人が「うちのクラスは『団結』は無理なんだよ」と言いました。昨年度まで「みんなで」を目指してきたが、その取り組みが、かえってクラスに溝を生じさせてきたようです。でも、リーダーたちの様子を見ていたりやはり「みんなで」やりたいんだな、と思いました。また、全員と個人面談をしていると、クラス活動に消極的な生徒たちもクラスのことをよく見ていて、よく考えていることがわかりました。この分科会では、私も、クラスも紆余曲折しながら「みんなで」を目指したクラス活動をレポートし、みなさんと学びあいたいと思います。</p>	<p>報告者 本多 菜美</p> <p>助言者 森 俊二 (成城大学特任教授 東京大学非常勤講師)</p>
第4分科会	<h3>新学習指導要領における「公共」を考える</h3> <p>～和光高等学校「現代社会」の実践から～</p> <p>学習指導要領の改訂に伴い、「公共」が新設されていくことになります。主な学習内容としては現行の「現代社会」の領域になっています。一方で「初等中等教育における『道徳』の終着点」としても位置付けられており、その中でも「公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ること」など、より具体的に日本という国家の構成員であることに対する自覚を深めていくことが目的化されています。</p> <p>では、この「公共」という科目に対して私たち教員はどのように向き合えばいいのでしょうか?新学習指導要領の「公共」に関わる“文言”をどのように分析し、学習内容を精査していく必要があるのでしょうか?そしてこの「公共」を通じて生徒たちに何を伝えていかなければならないのでしょうか?</p> <p>和光高等学校3年生の必修「現代社会」の現行カリキュラムをもとに、現担当者を中心として報告させていただきながら共に考えていきたいと思っています。</p>	<p>報告者 和光高等学校 社会科</p> <p>助言者 子安 潤 (中部大学教授)</p>